



ビオトープ・サロン 新年のご挨拶に代えて

新年明けましておめでとうございます。

昨年は、猛暑で自然にもいろいろな異変がありました。北ではマリモの腐敗、サンマの不漁、米どころでは白化による品質低下、身近なところでは果樹や野菜の不作、力の発生が減少、それからヒガンバナがお彼岸に咲きませんでしたね。そして、年末年始には各地で豪雪が。もしや、秋と春がなくなって夏と冬だけになるとか・・・まさか！？

さて、平成22年度ビオトープ管理士資格試験において、徳島会場では四国4県の受験者が挑戦され、徳島県にも若干名の管理士が新たに誕生しました。自然と共存する県土づくりに貢献していただけることと思います。

(財)日本生態系協会のホームページに、「平成22年度ビオトープ管理士資格試験から読み取れる傾向とご留意いただきたいこと」として、受験や受験後の心構えについて紹介されています。その内容は、受験に限らず、環境保全の活動やお仕事にお役立つのでは・・・と思い、ここにその要約をご紹介します。(編集担当)

【平成22年度ビオトープ管理士資格試験から：(社)日本生態系協会HPより要約転載】

1. **まずは野外へ！**-----
 ごく普通の生きもの(コゲラやカワラヒワ、カモ類など)や現場でよく話題にのぼる生きもの(ゲンジボタル、危険生物など)であっても、その生態や姿かたちを知らない方が意外に多いということです。座学はもちろん大事なことです。現場での活動や業務を通じて、経験を積むことも大切にしてください。
2. **「環境関連法」の対策を**-----
 正答率が低めの傾向です。生きものの知識や自然を守るための考え方、技術力などを実際に活かすには、関係する法律や制度をきちんと知っておくことが必要です。これはビオトープ管理士の最大の特徴であり、むしろ、合格した後にも続けて勉強していくことが求められます。なお、法律・制度は頻繁に改正がなされますので、注意が必要です。
3. **「生態学」は土台です**-----
 特に2級において「生態学」で合格基準を満たせない方が多くみられました。生態学は、ビオトープ管理士の知識や考え方の土台となる最重要の科目です。他のどの科目でも、生態系の要素は必ず入ります。知識としても楽しめる科目でもありますので、しっかりと身に付けてください。
4. **在来種と外来種**-----
 在来種と外来種の区別が曖昧な傾向があります。特定外来生物に指定されているものは「豊かな自然」や「健全な生態系」の中には本来いないものですから、しっかりと区別しましょう。なお、動物ならペットや家畜、植物ならば園芸種や農作物・果樹なども、同様です。また、もともと“日本国内”にいるものだとしても、“他の地域”から人の手によって移動されたものは、外来種と同じように自然を壊すことにつながります。
5. **「里山」ブームのようですが・・・**-----
 里地・里山において「自然」と称されるものは、人の営みによって作られたもので、本来的には都市景観と何ら変わらないものです。このことを踏まえたうえで、ビオトープの視点(生きものの視点)からエコアップし、どれだけ自然と共存できる形に近づけられるか、ということが里地・里山の取り組みの今日的な意義であり、課題です。
6. **ポイントは「もともとあった地域の自然」**-----
 見た目に“みどり”があれば“自然”があるのかというと、現在の日本では、たいていの場合は正しくありません。「ウチの地域は自然がいっぱいで・・・」という言い方をされることがありますが、その“自然”や“みどり”の質を見極めてください。重要なことは、それがもともとその地域にあったものなのかどうか、ということに尽きます。
7. **生きものが多ければ自然が豊か？**-----
 “みどり”のことと同様に、その場所にいる生き物の種類や個体数がとにかく多ければ、生物の多様性が高いとか、“健全な”生態系がある証拠かということ、必ずしもそうではありません。街の中に野生の生きものがやってきたりするようになったのは、街に自然が回復したのではなく、すみかを追われ餌もとれなくなったため仕方なくやってきたのかもしれない。一見、生物の多様性が豊かになったかのように見えることでも、それが果たして“健全な”状態であるといえるのかどうか、過去の記録や文献などで本来の自然の様子を調べ、冷静に判断する必要があります。

ビオトープ・サロン 熱血オジサン奮闘記！ ～ブログ-ビオトープ気延の里～

寄稿：石井町のわんぱくおじさん(ビオトープ気延の里)

【カレーパーティー ～ビオトープ気延の里へ集結～ 11月1日 曇り】



11月1日 曇り 午前中の雨も止み、雲間からは太陽も。今日はおみ播きから始まった稲作の仕上げ、カレーパーティー。
 12:00 丁度に校長先生初め石井小学校の5年生100人あまりが“ビオトープ気延の里”へ集結しました。ご飯はお釜で、カレーは午前中に学校の給食室で調理済みのものをコンロで温めていただきました。
 去年はおこげがあったり、ホツめしがあったりとなかなかうまくいかなかったんですが、今年はお釜もバッチリ！おいしいカレーがいただけました。が、少し量が足りなくて、私はおいしい香りだけでした。トホホ！

ビオトープ・セミナー 資格試験に挑戦して基礎知識を修得しよう!

ビオトープ管理士資格試験過去問題 出展：(財)日本生態系協会主催「ビオトープ管理士セミナー」のテキストより
無断転載禁止：本紙は財団法人日本生態系協会の許可を得て転載しています。(編集担当)

【施工部門：正答・解説は次号で紹介】

問025：国道の計画にあたり、距離で100m、両側各20mを環境施設帯として確保し、緑化することになりました。実際に緑化するのは、5年後の予定です。緑化計画の立案に当たり、担当者からアドバイスを求められました。1～5のうちで、最も適切なアドバイスはどれですか。

1. 現場に生育している種類と同じ名前の植物の種子を、種苗生産・販売業者から調達できるかどうか調べ、調達できる場合、外国のものであっても、同種であれば遺伝的に近いので、その利用を勧める。
2. 調達できない場合は、他に方法が無いので、ハナミズキなどを推薦する。
3. 野生生物は無主物ということから、現場近くの雑木林などに特に断らず立ち入り、地元の植物の種子を集めることを勧める。
4. 地権者の同意を得て、現場近くの雑木林などから、植栽予定本数と同じ数だけ種子を集め、近くの小学校の児童に、それを育てる里親になってもらうことを勧める。
5. 地権者の同意を得て、現場近くの雑木林などから、植栽予定本数より多めに種子を集め、現場近くの農家と契約して、植栽が可能なサイズになるまで、それを育ててもらうことを勧める。

前号024の正答「2」

a：住民参加は、利用者の意見や要望の反映と公園への愛着の意味で重要です。/ b：緑の中で単に目立つサインは、適切とはいえません。調和の視点と生きものへの配慮が必要です。/ c：代償措置の前に、まず「回避」次に「最小化」を優先します。/ d：都市緑地法は都市公園法の上位に位置づけられています。また、緑の基本計画は、緑に関する総合計画ですから総合公園も整合することが必要です。/ e：基本方針の決定段階に限らず、施工段階であっても、希少野生生物が発見された場合は適切な対応が必要で、見直しを検討することが求められます。

最近の受験者は、環境NPO構成員、国・地方公務員、外郭団体や地方自治体職員、企業退職者が増加傾向です。

ビオトープ・サロン お便利コーナー

読者の方々から、お便りをいただきました。これからもよろしくお願ひします。(編集担当)

【Sさん】

ビオトープ・ニュースをいつも楽しく読ませていただいております。一層のご活躍を祈念します。

【Aさん】

力作のビオトープ・ニュースですから、TG会のHP(情報交換掲示板等)でPRされてはいかがでしょうか? TG会PRのためにも、よろしくお願いいたします。

【Yさん】

ニュース通信たのしく読ませて頂きました。次号も楽しみにしています。有り難うございました。

【Kさん】

ビオトープ・ニュース毎回読んで勉強しています。
 気持ちの良い気候です。先日、国定公園高野瀬峡に行ってきた。まるで絵葉書になっている京都嵯峨野に負けない世界でした。
 自然の大切さをひしひし感じ、今もあの紅葉が浮かんでいます。ダム資料館も近くにあり、「よくぞ反対して止めてくださった」と自然を残して守って頂いた村の方々に感謝です。
 自然の力の怖さ知っている80歳の方を先頭に、棚田で柚子を栽培し全国ブランドに育てました。そして、柚子加工、土産物、株式が立ち上がりました。
 皆が山で働ける様に工夫した高野瀬峡のレストランも、土産売り場も、年寄りの店員です。建物は町で紅葉の期間開けて土曜日と日曜日はフル回転だそうです。
 森が育ってくれないと下流に生きる生物すべてに影響が出ることの重大さを、ダム反対資料館は知っていました。
 何を次世代に残してやるかと考えると、自然と生きる知恵ですね。今問題のYダムは必要なのか?
 私達は、自然を大切に、子たちに手渡してやりたいのです。

ビオトープ・サロン

書籍紹介コーナー

待望の公式テキスト発行! (編集担当)

【ビオトープ管理士資格試験公式テキスト】

監修：財団法人 日本生態系協会
 発行：(株)日本能率協会マネジメントセンター
 A5判/並製本/312頁/定価：2,940円

ただし、2級対応です。1級を目指される方は、自己研鑽に努めてください。



編集後記

ビオトープに関するお役立ち情報のもとより、皆様の活動やお仕事、日常生活を通じて見たり感じたりしたこと、身近な自然の春夏秋冬や喜怒哀楽のご寄稿をお待ちしております。ふるってご参加ください! 編集局

【E-mail: kanv@nifty.com URL: http://biotopetokushima.yu-yake.com】